

女化まち歩き

女化神社周辺の史跡等を巡り，老舗の稲荷寿司を食べ比べ！！

女化神社

旧岡田小学校
女化分校校舎

澤田茶園

女化神社奥の院

旧竹内農場
赤レンガ西洋館

明治天皇
駐蹕之地石碑

令和元年10月24日（木）

【主催】龍ヶ崎教育委員会 文化・生涯学習課

女化（おなばけ）まち歩き

女化神社周辺の史跡等を巡り，老舗の稲荷寿司食べ比べ！！

本日の日程

- 8：30 集合【龍ヶ崎市役所 本庁舎玄関前】
- 8：45 バスで【女化神社】へ移動
- 9：00 見学【女化神社】
- 9：15 徒歩で【女化神社奥の院】へ移動
- 9：25 見学【女化神社奥の院】
- 9：35 徒歩で【旧岡田小学校女化分校校舎】へ移動
- 9：40 見学【旧岡田小学校女化分校校舎】
- 9：50 徒歩で【旧竹内農場赤レンガ西洋館】へ移動
- 10：15 見学【旧竹内農場赤レンガ西洋館】
- 10：25 徒歩で【澤田茶園】へ移動
- 10：55 見学【澤田茶園】
- ※トイレ休憩含む
- 11：15 徒歩で【明治天皇駐蹕之地石碑】へ移動
- 11：25 見学【明治天皇駐蹕之地石碑】
- 11：35 徒歩で【女化神社】へ移動
- 11：45 バスで【歴史民俗資料館】へ移動
- 12：00 【歴史民俗資料館】で昼食
- ※市内老舗3店舗の稲荷寿司を食べ比べ！
- 12：45 バスで【龍ヶ崎市役所 本庁舎】へ移動
- 13：00 解散【龍ヶ崎市役所 本庁舎】

MEMO

A series of horizontal blue dashed lines for writing, filling most of the page below the 'MEMO' header.

MEMO

A series of horizontal dashed blue lines for writing, filling the majority of the page below the 'MEMO' header.

1. おなぼけじんじや 女化神社

【所在地】

龍ヶ崎市馴馬町 5379 番地

【竣工】

永正 6 年（1509 年）に創建

【祭神】

保食命（ウケモチノミコト）

うけもちのかみ
ご祭神は保食神であり、穀物ごこくほうじょうが豊かに実る五穀豊穰の御利益があるといわれている。



【由緒】

女化神社は隣接する牛久市内にある龍ヶ崎市の飛地に鎮座。

かつて龍ヶ崎市の来迎院（龍ヶ崎市馴馬町 2362）に守護されていたことから今も龍ヶ崎市の神社とされている。

昔、女化神社は明治 2 年まで女化稻荷社おなぼけいなりしゃ、明治 17 年まで保食社うけもちしゃと尊称されていたが、女化の旧称は一般に慣れ親しんでいたため、明治 17 年（1885）10 月に女化神社と改称し現在に至る。

社殿は享保 14 年（1729）・文久元年（1861）の野火で類焼している。享保 14 年（1729）焼失の翌年（1730）には、焼失した社殿に代わるものとして現在の社殿の裏せきしに石祠が建立されている。

この女化神社は文化元年（1804）に起きた女化騒動うしくすげごういっき（牛久助郷一揆）で、蜂起した農民達の集合場所としてもあてられている。

【市民遺産「女化神社 親子狐の石像」（平成 30 年 3 月認定）】

拝殿の前にある、一对の親子狐の石像。こちらの石像は、江戸時代末期から明治期にかけて関東近郊で様々な神社の狛犬などを手掛けた東京の石工・高橋安五郎たかはしやすごろうが手掛けたものである。明治 2 年（1869）9 月、東京深川（東京都江東区）の大黒屋藤助・岡田屋宗兵衛だいくやとうすけ おかだやそうべえの両名から寄進された。この像は明らかに女化原の狐の伝説をモチーフとし、三匹の子ども狐を伴った愛らしい姿をしている。時期的にみると、江戸時代末期には江戸の方まで、女化神社の存在が知れていた。



寄進 ▲大黒屋藤助



寄進 ▲岡田屋宗兵衛

龍ヶ崎市民遺産制度は平成 27 年 4 月にスタートしたもので、親子狐の石像は通算 12 番目の市民遺産として認定された。

【女化原の狐伝説】

むかし、根本村（稲敷郡にかつて存在した村）に忠五郎という幼い時に父を亡くし、家が貧しく母親と二人暮らしのお百姓さんがいました。

ある晩秋の頃、忠五郎は野良仕事の合間に作った筵（藁やイグサなどの草を編んだ簡素な敷物）を、土浦へ売りに行って帰る途中、高見原にさしかかった時のことです。

突然、あたりが暗く時雨模様になり、雨が降り出しました。気味の悪い鳥の声も聞こえ、心細くなってあたりを見回すと、自分より 5、6 間先の松林の下に狩人が、今にも弓矢を放たんと弓を張り、一方では、この事を知らずに狐が眠っているのに気付きました。

忠五郎は、もともと慈悲深い人で、獣とはいえ目の前で殺されるのは可愛そうだと思い、狩人の前を知らぬふりして足早に通り返り、突然大きく咳をしました。狐は驚いて起き上がり、草むらに逃げ込み、狩人は怒って忠五郎に駆け寄って来て捕まえ、「足音を立て大きな咳をするから、狐が逃げてしまった。獲物を返せ。」と怒鳴りつけました。忠五郎は何度も

謝りましたが許してもらえず、
獲物を弁償するまでは手を放
さないというので、筵を売った
ぜににひゃくぶん
錢二百文を渡して、やっとのこ
とで家に帰りました。



忠五郎は狐を助けたことを
母親に話し、一緒に喜び寝よう
とした頃です。家に男女二人の
旅人が、疲れた様子で訪ねてき

ました。旅人は、「我らはおうしゅう奥州の者で、わけあって鎌倉に行くのですが、日が暮れてしまい
困っています。どうか一晩宿を貸してください。」と言いました。

忠五郎は母親と相談し、宿を貸すことにしました。

親子は旅人を家に入れてもてなし、世間話をしたりして眠りにつききました。

間もなく夜が明け、親子はいつものように起きて戸を開けて旅人を見ると、男は何処にも
居ませんでした。女は一人で板の間の上に筵を敷いて寝て居ました。親子は驚き、女を起こ
して尋ねましたが、反対に何処へいったのか聞き返されてしまいました。

忠五郎は、むつのくにいわきぐん「私は陸奥国岩城郡
(福島県)の者で、子供の頃両親を亡くしました。昨夜一緒にいた者は、私の家に代々仕え
る者で、これまで私を養ってくれましたが、家は日を追って落ちぶれ、おじ伯父を頼ろうと鎌倉
に行く途中でした。あの者は旅の費用を持って逃げてしまったようです。ここまで来ましたが、
旅を続けることも出来ません。あなた様の情けに今は頼るしかありません。哀れと思い
しばらくの間ここにおいて下さい。」と泣きながら話しました。

親子は、とてもふびん不憫に思い、若い娘の頼みを聞き入れました。

忠五郎の家にとどまることとなった若い娘は、親子の仕事を手伝い、慣れない野良仕事、
はたお機織りなども次第に上手になり、一緒に暮らすようになりました。

こうして月日はたちまちのうちに過ぎ、近所の人が娘の親代わりとなって、忠五郎と夫婦
の縁を結ぶことになりました。

貧しい家でしたが、娘は忠五郎親子より朝早く起き、夜は遅くまで働きました。また、田
植えなどは人の起き出す前に「筒穂つつぼになれ」と呪文を唱え、あっという間に植え終わりました。

その稲は不思議と夏までは他の田んぼより育ちが良いのに、秋になって役人が検見に来て
も筒穂(実が入っていない穂)のままなので年貢は免除され、これを刈り取る時になると、
一斉に穂が出てたくさんのお米を取ることができました。

おかげで、忠五郎の家は日を追って暮らしが楽になりました。夫婦となって8年が過ぎ、
その間に三人の子供も生まれ、長女のお鶴は7歳、亀松は5歳、竹松は3歳となりました。

この年の中秋の頃、姉弟は仲よく外で遊び、忠五郎は野良仕事へ、老母は近所へ用事に
行き、母は竹松を膝の上に載せてお乳を吞ませ、寝かしつけていました。

母も横になって、庭に咲いている
菊の花を見ていると、その美しさに
心引かれ、ぼんやりとして竹松と一
緒に寝入ってしまいました。すると
思わず狐の本性を現してしまいまし
た。そこへ、遊びから帰って来た姉
弟が、母を見ると着物こそ元のまま



だけども、顔と手足が狐になって、裾からは尻尾すそ しっぽが見えていました。本性を現わし寝てい
る母を、姉弟は「恐ろしいことに、お母さんが狐になってしまった。」と悲しむ声をあげ、
それを聞いた母親は驚いて跳び起き、何か言おうとしましたが、姉弟は怖がり恐れ泣き叫ぶ
ので、母親もどうしたらいいのかわからず、泣き崩れる心を落ち着かせ考えました。

私は情けない獣の身、忠五郎殿に助けていただいた恩に報いるため、人間の姿になった。
狐の浅ましい知恵、その恩の上に情けをかけられ立ち退く時のを忘れたことを手紙に書いて、
竹松の袖に結びつけることにしました。そして、竹松を膝に載せて頬擦りし、「竹よ竹よ、
今が別れの時、母に顔をよく見せなさい。」といっても何もわからないわが子と別れを惜し
みましたが、揺すれば揺するほど竹松は寝入ってしまうのでした。母は寝入った竹松を見届
け、着物を脱ぎ狐の姿となって、草むらの中に分け入りいりました。母の姿が見えなくなると、
鶴と亀松は駆け寄り、「お母さん、お母さん」と捜しまわり、騒ぎを聞いて竹松も目覚めて
共に泣きだしました。

忠五郎は、このことを聞いても、妻が何故へ行ってしまったか分からず、子供たちを宥めなだ
ていると、竹松の袖に何か結び付けたものがあるのに気付き取って見ると、これまでの経緯
が書かれており、最後に「みどり子の 母はと問はば、 女化の 原に泣く泣く 獣すと答

えよ」とありました。忠五郎は読み終り嘆き悲しみました。

老母もこのことを聞いて「嫁は狐で在あったのか、いなくなるにしても8年、夫婦になって3人の子供もあるのに、親子の縁はいつの世も切れないもの、狐でも構わないから早く呼び戻して元通りに」と竹松を忠五郎の背に載せて、「早く早く、夫婦ならば尋ねてみなさい。」と急がせました。忠五郎は鶴と亀松の手を引いて高見原を訪ねて行きました。

以前、狐を助けた所に来て見ると、松林の辺りに古塚があり、その側に穴がありました。忠五郎は、「このところだ。もしこの裏に居るならばどんな姿でもいいから、共に暮らした仲ではないか。あなたにわけがあるにしても、竹松が七歳になるまで、母よ妻よ子供のために帰ってくれないか。」と言いました。鶴も亀松も、「お母さん、何処に居ますか一緒に帰りましょう。」と泣きながら繰り返しお願いしました。すると、穴の中から声が聞こえ、「私も悲しさは同じです。一度本性を知られては再び家には帰れません。子供たちの養育は頼みます。私は姿を現しませんが、永く子孫を見守ります。」といい、姿を現しませんでした。

竹松は、父に背負われその声を聞き、母恋しさに泣き出しました。忠五郎も成す術もなく、「どうしても帰れないならば今一度、元の姿になって子よ母よと言葉を交し、竹松に乳を舂ませあやしてくれ。」とお願いしました。穴の裏から「私も見たいし見せたいけれど、再び人間の姿と成ることは叶わぬことですから、この身を察して早く帰って下さい。」と声が聞こえました。忠五郎は、「いやどんな姿に成っても構わないから。」と繰り返すと、穴の中より涙に濡れた母親が顔を出し、子供たちを一目見ると、狐の姿となり二度と忠五郎たちの前に現れることはありませんでした。

その後、子供たちは無事に成長し、竹松は京都に上って三条通りに住み、一男をもうけ、千代松と名付けました。

千代松が13歳の時、父の生国が常陸国河内郡ひたちのくにかつちぐんと聞き、祖父を尋ねてみようとう東国に向かいました。途中で道に迷い、信州の山奥で不思議な人物に出会い、そのもとで5年の歳月を送る間に、天文学、地理学、軍学を学び諸芸を極め、名を柳水軒義長りゅうすいけんよしながと改め、山を降り東国に向かいました。

そして、常陸国牛久城主の家臣となり、家老栗林左京の娘婿となり、栗林義長くりばやしよしながと名乗るようになりました。稲荷の功力によって幾多の合戦に勝利した義長は下総守義長と号し、関東の孔明と称えられる人物となりました。

参照：『龍ヶ崎の口承文芸Ⅱ～女化の狐伝説～』より

【女化の初午】

女化の初午は江戸時代から、近隣の村々からのみならず、遠く江戸からも信者が集まり、日ごろは人影のほとんどない原中にそれこそ狐に化かされる話そのまま、こつぜんと門前市をなしたという。明治・大正時代には、近在のものをはじめ、千葉・八街の講中、銚子の漁師、東京赤坂の芸者など幅広い信者が関東一円から五穀豊穡・商売繁盛・家内安全を願って集まり、二万人もの参拝者で大変な賑わいを見せた。八街は初代神官青木又氏が女化に入る前に一時その地に住んだことがある関係で、分社がいくつかあって、その御分靈ごぶんれいの講中の人たちが初午の前日に到着、額を奉納して宵祭りをしたという。また千葉県銚子では、むかし不漁の時に、女化稲荷のお札を海にまいたところ、豊漁になり、それ以降参拝が続いているという。

また、初午当日は境内の馬駆け場に近隣から馬が集まり競馬が行われてにぎやかさを加え、芝居・見せ物が小屋掛けをして客を集めた。

今年も平成 31 年 3 月 10 日に初午は行われ、多くの人で賑わいを見せた。

2. おなほけしんじやおく女化神社いん奥の院

【所在地】

牛久市女化町 471 番地

【石祠】

女化神社から北へ 630m進むと現れる女化神社奥の院。

院内にある黒い石碑は女化の狐が身を隠した穴を祀る石祠せきしであり、通称「お穴さま」と呼ばれ、享保 4 年（1719）に建てられた。いまから約 300 年も前に建てられたもので、歴史的価値があり、女化神社に関する造営物の中で最も古い年代を刻む。



【五角形の石柱・石碑】

女化原は関東ロームによる酸性土に覆われていて、耕しても稔みのらぬ不毛の大地と呼ばれ、作物を作ることは至難の技であった。当時の内務卿大久保利通の指示を受けて、旧土佐藩士ないむきょうの「津田出」が女化開拓に乗り出すも、当初計画通りに進まず開拓は挫折。その後、広

大な農地の一部を^{かみやでんべえ}神谷傳兵衛と、^{たけうちつな}竹内綱（吉田茂元総理大臣の父）が取得。更に徳島から杉本民蔵をはじめとする移住農民に払い下げられた。石碑は苦勞の末、女化の開拓が進み、開拓も順調に進んだ時、開拓の成功を祈念して開拓民が建立した。台座には47名の農民の名前が刻まれている。



3. ^{きゅうおかだしょうがっこうおなほけぶんこうがくしゃ}旧岡田小学校女化分校校舎

【所在地】

牛久市女化町 391-1

【所有者】

牛久市

【竣工】

昭和14年（1939年）3月

【校舎の歴史】

旧岡田小学校女化分校校舎は市内現存唯一の戦前の木造校舎であり、国土の歴史的背景に寄与しているものとして平成30年3月に国登録有形文化財に登録された。校舎は木造^{もくぞう}平屋建ての切妻造である。外壁は下見板張。屋根はもと^{さんかわらぶき}棧瓦葺。正面東寄りに切妻屋根の玄関を構え、北側は廊下とし、南側は大教室。大教室は内部を二分でき、授業形態や多目的利用に対応する造りである。今もなお、女化分教場は開拓のシンボルとして、女化原の歴史を刻んでいる。

明治31年（1898）創立の^{しりつおなほけじんじょう}私立女化尋常小学校（開拓入植者が創立した学校）が前身であり、女化原の移住者にとって、幾多の困難の中で出来た小学校は、心のよりどころとなり、学校教育だけでなく、移住者の集会所として使われ、相互の絆を深めていった。その後校名は^{むらたち}村立岡田小学校女化分教場となり、昭和47まで存続した。校舎は教育の場だけではなく、女化の中央集会所となり、戦中戦後も様々な集会（女化産業組合、集落運動会、農繁期季節保育所、女化青年会、敬老会）に利用された。



4. 旧竹内農場赤レンガ西洋館

【所在地】

龍ヶ崎市馴馬町 2240-46

【竣工】

大正9年（1920年）

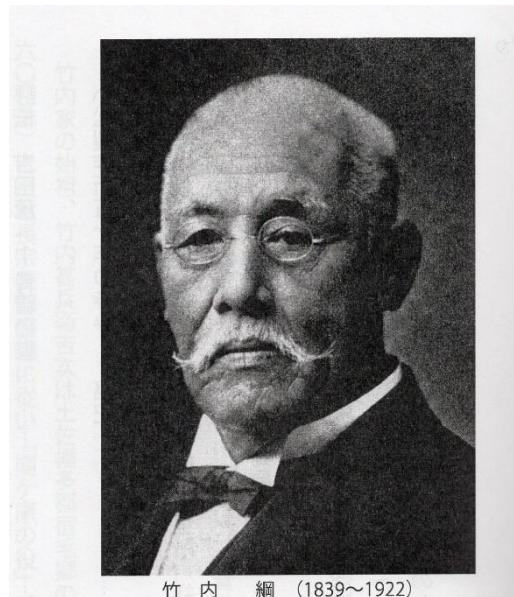
【竹内綱】

竹内綱は土佐士族であり、同郷の板垣退助とともに活動した政治家（自由党幹部）としても活躍。さらに、後藤象二郎とともに炭鉱開発に関わり、高島炭坑（長崎県長崎市）、芳谷炭坑（佐賀県唐津市）、茨城炭鉱のち茨城無煙炭鉱（茨城県北茨城市）などを経営。また、鉄道事業などを手掛けた実業家でもある。当時の朝鮮における京仁鉄道（ソウル-仁川間）や京釜鉄道（ソウル-釜山間）のほか、茨城県内では常総線（現関東鉄道常総線）の敷設に尽力した。

【竹内明太郎】

竹内綱の長男。明治44年、父・綱が経営していた茨城無煙炭鉱会社の経営を受け継ぎ、その後は竹内鉱業株式会社を設立し、茨城無煙炭鉱（茨城県北茨城市）、芳谷炭坑（佐賀県唐津市）、遊泉寺銅山（石川県）などを広く経営した。当時、これらの炭坑や銅山で使用する工作機械は多くを輸入に頼っていたが、これらを自前で開発する事業も展開し、小松鉄工所（現コマツ製作所）や唐津鉄工所（現唐津プレジョン）を創始。

このほか、日産自動車の前身の一つである快進社の創始、国産自動車DAT号の製造にも関わっている。



竹内綱（1839～1922）



竹内明太郎（1860～1928）

また、衆議院議員としても活躍。一方、早稲田大学理工科の新設に寄与したほか、郷里である高知市に工業学校（小松工業高等学校）を設立するなど育英事業にも大きな貢献をした。

【竹内農場】

現在地にあった竹内農場は、竹内明太郎自らが経営する茨城無煙炭鉱の労働者に供給する農産物を生産するために開かれた附属農場で、大正元年に竹内綱の名義で官有林80町歩余り（約80ヘクタール）を購入したのに始まり、その後、開墾・開発が進められた。開墾、開発が進められる過程では、畑のほか、事務所や農夫舎、馬屋、倉庫、放牧場、果樹園等が作られたとされる。

この間、第一次大戦後の恐慌や大正12年（1923）の関東大震災の影響などによって、炭鉱等の経営が困難なものとなり、昭和3年（1928）、遂に竹内鉱業株式会社は整理、解散。農場も役目を終え、事業整理の後、農地は地元の農家に貸し出された。

竹内農場の開発は、富国強兵や殖産興業といった国策のなかで発展してきた炭坑開発等の過程で生まれた事業の一つといえるが、明治・大正期の実業界の中心で活躍し、今も名を遺す著名人による事業が、同時期の龍ヶ崎地域にも波及していたことを示す貴重な遺産といえる。

【赤レンガ西洋館】

竹内農場のシンボルともいえるのが二階建ての赤レンガ西洋館。炭鉱の附属農場である一方、農場の開発に際しては、すぐ近くに広がる蛇沼を取り込んだ庭園設計図（「竹内家農園内設計図」）が作られており、竹内家の別荘地的様相も包含した造りになっていた。設計図は、公園という概念がない時代に現れ、日本人初の公園デザイナーと呼ばれた長岡安平ながおかやすへいの手によるもので、貴重な資料の一つとなっている。



大正9年（1920）に竣工したレンガ造りの西洋館は、竹内明太郎の別荘であり、建築の前後では明太郎とその家族も複数回訪れたことが、同人の日記に記されている。建築は東京

市芝区西久保八幡町の太田圓七建築部によるもので、建築材料の多くは常磐線で運ばれ、牛久駅から馬車等で現地へ運ばれた。このうち、レンガは、平成 29 年（2017）に龍ヶ崎市が行った調査の結果、明治 20 年（1888）に渋沢栄一が設立に関わった日本煉瓦製造株式会社（埼玉県深谷市）が製造したレンガであることが判明。レンガのごく一部に同社の製造であることを示す刻印「上敷免製」があったもので、同社製造のレンガは、東京駅丸ノ内駅舎や国の庁舎等に使用されたことが知られている。

明太郎がこの別荘を実際に使用したのは大正 9 年（1920）から大正 12 年（1923）までの 3 年間、大正 13 年（1924）からは明太郎の弟の一人である竹内直馬の一家が移住し、昭和 7 年（1932）に一家が東京へ転出するまで使用された。

5. 澤田茶園

【所在地】

牛久市女化町 30 番地

営業時間：午前 8 時～午後 7 時

定休日：元旦及び 1 月 2 日

電話：029-872-0307

牛久市女化にある澤田茶園。真っ先に目に入るの、手入れが行き届いた美しい茶畑。澤田茶園は茶葉や落花生の生産・販売をはじめ、自社生産の雑穀や野菜なども直売している。

現在 4 代目社長である澤田臣男さんのモットーは「健康に役立つ商品作り」。茶葉を低農薬で栽培し、香りが高く深みのある商品として地元の人々に愛される。



6. めいじてんのうちゅうひつのもせき 明治天皇駐蹕之地石碑

【所在地】

牛久市女化町 97 番地

【建立】

大正 11 年 (1922)

当時の日本は、西洋諸国に負けじと富国強兵が叫ばれ、軍隊の編成をプロシア（ドイツ）に見習い近代化が進められていた。そこで、明治 17 年 (1884) 11 月 27 日から 12 月 10 日まで（往復準備日数を含むと約 3 週間に及ぶ）の間、このえほうへいだいここ女化原において近衛砲兵大隊 1000 人が参加する大規模な大砲射的演習が行われた。これまでの演習では、既定の距離で照準を定め

て射撃を行い、弾丸の効力を計るに過ぎなかったが、この演習は、実践に模して行うという画期的なものであった。当時の女化原は、大部分は荒地で広大な原野が続く場所であり、東京から 60 km と比較的近く、演習に適した地として女化原が選定された。期間中、土地の買い上げなどは行われず、点在する入植者を一時移転させて演習が実施された。

また、この演習に際して明治天皇が女化に行幸された。演習の最終段階、12 月 8 日に明治天皇が天覧された際、乗り物（馬）を駐蹕（天皇行幸の途中、一時乗り物を停める・駐留することを指す）していた場所がここ「明治天皇駐蹕之地」である。

明治天皇がお立ちになった地と馬をつないだという松には、大正 11 年に、高松彰一郎によって「げいほう迎鳳の松」の碑が切株のもとに建てられ保存されることになった。また、「明治天皇駐蹕之地」と記された石碑の運搬にはあまりの大きさに馬車が使えず、四輪車に載せて、130 人もの人が牛久駅から運んだという。

ひぶん とくとみそほう碑文は徳富蘇峰（(1863～1957) 明治・大正・昭和にかけて思想家、歴史家、評論家として活躍）によるもの。



稲荷寿司を食べ比べ！

★伊勢屋 龍ヶ崎横町

住所：龍ヶ崎市横町4 2 4 3

営業時間：午前8時45分から午後5時

定休日：月曜日

電話：0297-62-0858



★国華堂

住所：茨城県龍ヶ崎市寺後 3 4 7 0 - 4

営業時間：午前8時30分から午後7時

定休日：木曜日

電話：0297-64-4328



★てらだ家

住所：龍ヶ崎市米町3 9 1 3

営業時間：午前9時から午後7時

定休日：水曜日

電話：0297-62-0605

